





地域伝統

・和ろうそく(日本一)



杜の都熊本



火の国熊本



水の都熊本



熊本暮らし人祭り

みずがきり

印

生地とは、発端の秘儀にたちあう場所である。

遠く生国をはなれていても、あるとき人は、足ばやに生地を目指す。そこに人々の源流があるからだ。

活火山阿蘇の南麓、地下三〇メートルのあたりに、巨大な地中の水庫がある。山に降った雨水が火山灰で濾過され、数千年の間に、滴々としてたまった地下水である。

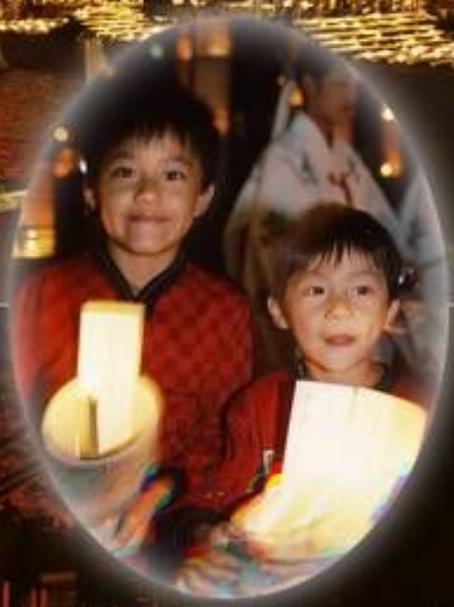
熊本町の町はその巨大な水壺の、飲み口の部分に位置している。出水町、神水町、江津町、水前寺町、八景水谷、いずれも摂氏十五度の常温で湧出する水が流れている町である。山から流れてくる水ではない。水底のその場で、ふつふつと湧いている水である。

南国の陽光の下で、水面はまぶしい水あかりになる。川ぞいの古い土塀が、水の照りかえしでまっ白にかがやくあかるさである。日まじに繁華になってゆく町の中に、忘れもののように残った小流れは、それでもせんかんと水音をたててやむとぎがない。せわしない心がふとたちどまった時、人々は随所に、ささやかな水の発端を見るこゝとが出来る。

若い青い芦の根をめぐって、それとわかるひとすじの水なが湧く岸にいて、これはルルドの水だと思ふ。

私にとって生地とは、更に聖地でもあることだ。

安永路子著『みずあかりの記』より（新評論刊）



○ 世に星あかり
水あかり
「隅を照らす」

世代間交流

- ・学生
- ・若者
- ・会社員
- ・経営者



市民力の向上

(くらし人)

官民の一体化

- ・自衛隊
- ・市役所ボランティア



竹の侵食被害のある山林からの伐採
山林の再生



竹墨放流による
河川の浄化



浮き灯籠制作



メインオブジェ制作



坪井川・浮き灯籠設置作業



花端公園設置作業





企業・県、市職員で準備作業



幼稚園・小・中・大学生徒による三角灯籠作り



企業・一般・学生共同の竹灯籠作り



一般参加者による蠟燭への点火作業



一般参加者による竹ぼんぼりの献灯

